

## 平成21年度事業報告書

### (概要)

2016年夏季オリンピックを東京へ誘致しようという東京都、(財)日本セーリング連盟の招致活動に協力して、共同主催にて、「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2009」を東京都江東区の若洲ヨット訓練所で海外チーム8カ国を招聘して7月31日～8月2日に開催しました。

オリンピックセーリング競技会場予定地に対する海外チームの評価も高く、オリンピック招致活動については十分貢献出来ましたが、10月2日デンマークのコペンハーゲンでのIOC総会では残念ながら2016年オリンピックは最終的にブラジルのリオデジャネイロ市に決定しました。

本年度の競技会事業は下記の通りです。

地域普及大会としての「三ツ矢サイダーカップ」は、開催地に相応しい場所、候補地が選定出来なかったため開催を見送りました。

第29回日本少年少女オープンヨット大会(東日本地区大会)

平成21年5月3日(日)～5日(火) 山梨県山中湖ヨットハーバー

第29回日本少年少女オープンヨット大会(西日本地区大会)

平成21年5月3日(日)～5日(火) 広島県広島観音マリーナ

国際交流 日本ジュニアヨットクラブ競技会2009

平成21年7月31日(金)～8月2日(日) 東京都若洲ヨット訓練所

第19回ジュニアヨット国際親善レガッタ(ミキハウスカップ2009)

平成21年9月6日(日) 東京都若洲ヨット訓練所

### (部門別詳細)

#### 1. 総務関係部門

##### (1) 会員開発とクラブ加盟促進(総務委員会/普及渉外委員会/財務委員会)

(イ) 新たに2クラブが加盟登録し、1クラブが退会、2クラブが休会となり、現在活動中の登録クラブの代表者である正会員は62名です。(休会15クラブ)

(平成22年6月14日現在)

(新規加盟クラブ) かながわジュニアヨット倶楽部ワンダラーズ  
クローバーリーフセーリングクラブ

(退会クラブ) 光セーリングクラブジュニア

(休会クラブ) 苫小牧ジュニアヨット少年団、合浦ヨットクラブジュニア、石巻ジュニアヨットクラブ、玉造ヨットクラブ、佐島ジュニアヨットクラブ(新)、埼玉県セーリング連盟ジュニアヨットクラブ、熱海ジュニア海洋クラブ、大町B&G海洋センター、琵琶湖ジュニアヨットクラブ、B&G伊丹海洋クラブ、BSCジュニアヨットクラブ、広島ジュニアセーリングスクール(新)、小豆島ジュニアヨットクラブ、宮崎ジュニアヨットクラブ、B&G時津海洋クラブ

クラブの代表者以外の正会員は、理事14名、監事2名、その他の方2名の18名ですので、上記加盟クラブの代表者の正会員と合わせて正会員は総計80名です。

(ロ) 賛助会員については、「株式会社ライフ・サイエンス研究所」、「アサヒ飲料株式会社」の2社から引き続きご支援を頂いていますが、その後は新しい賛助会員はお願い出来ておりません。

## (2) 地方水域担当理事の活動（総務委員会/普及渉外委員会）

地方水域担当理事（総括と東：小松勇一理事、西：内藤武夫理事）は、引き続き定例理事会、総会への出席や全国大会、東西日本地区大会等の競技運営への参画を中心として活動しています。

## 2. 指導員養成部門（指導育成委員会）

(1) 本年度は、新たな公認指導員が4名認定されましたが（内2名は準指導員から昇格公認）、準指導員の申請は無く、更新した公認指導員は23名、準指導員の更新は無く、平成22年3月31日現在の公認指導員は126名、準指導員は2名が登録されています。

現在、36クラブには公認指導員がいない状況ですので、各クラブにおいては積極的に公認指導員の登録申請をして頂きたい。

(2) 指導者研修会を平成22年2月20日の通常総会時に開催しました。

## 3. 普及と広報活動部門

(1) 普及・振興活動（普及渉外委員会）

本年度も、地域普及大会の開催を検討しましたが、相応しい場所と中心となるクラブ等の選定が出来なかったので開催を見送りました。

(2) 各都道府県、関係市町村への広報、陳情活動（広報委員会/普及渉外委員会）

本年度の「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2009」については、東京オリンピック2016年招致活動協力の大会との位置付けで、東京都との緊密な連繋の下に諸準備を進めて、東京都若洲ヨット訓練所において開催出来ました。

(3) B&G財団との協調活動（普及渉外委員会/競技委員会）

B&G財団に対し、その傘下海洋クラブの当連盟主催各競技会、大会への参加呼びかけをして頂くよう継続的に働きかけながら協力関係強化に努力しました。

(4) クラス別協会との協調活動（普及渉外委員会/競技委員会）

当連盟加盟登録クラブがジュニアセーラー指導のため主として使用している艇種であるOP級、レーザー級、シーホッパー級等のクラス別協会とも連繋を強化して、各艇種の普及と競技会への参加増を努力しています。

(5) 日本OP協会との協調活動（普及渉外委員会/競技委員会）

当連盟加盟登録各クラブで使用している艇種の中で最も艇数が多く、当連盟主

催の競技会でも最も参加艇数の多いOP級のクラス別協会である日本OP協会との連携を強化すべく努力をしています。

(6) 機関誌等の発行（広報委員会）

平成21年9月にユースセーリング79号を発行、平成22年3月に80号を発行しました。

各地のクラブ訪問や巻頭言等、新しい企画で記事を刷新して充実を図っています。

連盟ホームページも少しずつ充実し、競技会のレース公示、帆走指示書等の情報提供、競技会のレポート、写真などを出来るだけ迅速にアップ出来るよう努力をしています。

(7) ジャパンボートショー2010 in 横浜出展（普及渉外委員会）

平成22年3月4日～7日、横浜市のパシフィコ横浜で開催のボートショーに出展しました。

(8) 競技会の開催（競技委員会）

(イ) 第29回日本少年少女オープンヨット大会（東日本地区大会）を、平成21年5月3日（日）～5日（火）、山梨県山中湖ヨットハーバーを会場に、文部科学大臣賞と国土交通大臣賞を頂き、山梨県、山中湖村、(財)日本セーリング連盟、山梨県セーリング連盟その他の後援、協力を頂いて、山梨県セーリング連盟ジュニアと山中湖中学校ヨット部との共同主催で開催しました。

参加クラブ 15チーム、参加選手 89名（指導者・保護者・役員 120名）

(ロ) 第29回日本少年少女オープンヨット大会（西日本地区大会）を、平成21年5月3日（日）～5日（火）、広島県広島観音マリーナを会場に、文部科学大臣賞と国土交通大臣賞を頂き、広島県、広島市、(財)日本セーリング連盟その他の後援、協力を頂いて、広島セーリングスクールジュニアとの共同主催で開催しました。

参加クラブ 11チーム、参加選手 57名（指導者・保護者・役員 90名）

(ハ) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2009を、平成21年7月31日（金）～8月2日（日）、東京都若洲ヨット訓練所を会場に、2016年夏季オリンピック東京招致活動を支援する目的で、10カ国の外国チームを招聘しましたが、新型インフルエンザ流行の影響で、直前に2カ国がキャンセルとなりました。

本年度は、新しい試みで、国際チーム対抗レースを企画しましたが、OP級3艇にレーザ級2艇の参加条件を満たす日本チームが無く、外国チームだけの国際チーム対抗となりました。

文部科学省、国土交通省、東京都、江東区、(財)日本セーリング連盟等多数の後援のもとに、文部科学大臣杯、国土交通大臣杯、特別協賛アビームカップを頂いて、東京都、(財)日本セーリング連盟、東京都ヨット連盟との共同主催で開催しました。

参加クラブ 国内 21チーム 参加選手 89名、外国 8チーム 34名  
合計29チーム 参加選手 123名（指導者・保護者・役員 170名）

(二) 第19回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ2009）を、平成21年9月6日（日）、東京都若洲ヨット訓練所を会場に、東京都ヨット連盟との共同主催で開催しました。

参加クラブ 13チーム 参加選手（個人参加を含む） 60名  
（指導者・保護者・役員 140名）

(9) 諸外国との親善交流（普及渉外委員会/競技委員会）

(イ) 平成21年7月31日（金）～8月2日（日）、東京都若洲ヨット訓練所で開催の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2009に、ニュージーランド、オーストラリア、イタリア、デンマーク、ベルギー、イギリス、シンガポール、ロシアの8カ国から、合計34名の選手と18名の指導者を招待し、7月30日（木）には、当連盟石原伸晃会長の主催で、外国チーム指導者、石原慎太郎東京都知事、山崎達光 JSAF 会長その他を招待してのレセプションも開催しました。

7月31日（金）の開会式後に、晴海客船ターミナルホールで、選手、指導者、保護者、運営役員他外国の招待者も含め国際交流会を開催しました。

(ロ) 平成21年9月6日（日）、東京都若洲ヨット訓練所で第19回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ2009）に外国選手も参加し交流しましたが、年々外国選手の参加が少なくなっているため、出来るだけ多くの外国選手に参加して貰うべく、在日大使館やアメリカンスクール等に呼びかけの活動をしましたが、9月第1週は夏休みで本国に戻りまだ帰京していない外国人が多いことから、来年度以降の開催日について再検討をすることにしました。

(ハ) 平成21年11月6日（金）～9日（月）、ソウル特別市で開催の、東京都・ソウル特別市ヨット交歓競技大会ジュニアヨットレースを後援しました。

(10) ジュニアヨットクラブの安全対策事業（指導育成委員会/普及渉外委員会）

(イ) 平成21年5月3日（日）～5日（火）、山梨県山中湖ヨットハーバーを会場に開催の第29回日本少年少女オープンヨット大会（東日本地区大会）において、3日の開会式後、参加選手、指導者、保護者に対し、大塚製薬(株)よりのビデオ、ポカリスウェットの提供を頂いて、当連盟理事、(財)日本セーリング連盟医事科学委員の上原ドクターによる安全講習会を開催しました。

(ロ) 平成21年7月31日（金）～8月2日（日）、東京都若洲ヨット訓練所を会場に開催の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2009において、31日の開会式後、国際交流会の前に、晴海客船ターミナルホールにおいて、大塚製薬(株)よりのポカリスウェットの提供を頂いて選手、指導者、保護者に当連盟安井常務理事が安全講習会を実施しました。

(ハ) 平成22年2月20日開催の通常総会時に指導者研修会を実施し、その機会に、併せて安全講習会も実施しました。

以上